



からだ館通信

第11号(2010年9月2日号)

慶應義塾大学先端生命科学研究所

からだ館 がんステーション

バックナンバーは、<http://karadakan.jp> でお読みいただけます

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町 14-1
鶴岡タウンキャンパス 致道ライブラリー内
TEL 0235-29-0806 FAX 0235-29-0807

9月・10月の行事

お問い合わせは慶應義塾大学からだ館まで

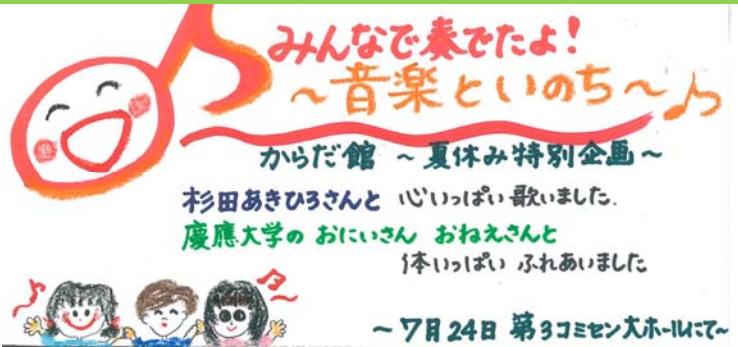
9/25 (土) からだにやさしいお料理教室 (女性センター)
調味料をおいしく使おう

10/1 (金) にこにこ倶楽部 (女性センター)

10/10 (日) 鶴岡市健康のつどい 小真木原運動公園

10/18 (月) 県知事ほのぼのトーク

★見学会・出前講座も随時受付けています



みんなで奏でたよ!
～音楽といのち～

からだ館 ～夏休み特別企画～

杉田あきひろさんと いっぴい歌いました。

慶應大学のおいさん おねえさんと

いっぴい ぶれあいました



～7月24日 第3コメンホールにて～



夏休みになった最初の土曜日、たくさんの応募者の中から抽選で選ばれた百名の皆さんがホールに集った、からだ館・夏休み企画「みんなでかなでよう!」音楽といのち。歌を通じて、健康なこと、相手を思いやること、仲間とひとつのものを作り出すこと、そんなことを感じて欲しくて生まれた企画でした。

リーダーは杉田あきひろさん。おかあさんといっしょの九代目うたのおにいさんです。そして、参加者の緊張をほぐしたくさんのやさしいふれあいをリードしてくれたのは、慶應大学湘南藤沢キャンパスの学生たち。ポケットから様々な遊びを出してくれました。ミニサッカーでボールを追いかけ、次はしゃんけんおにごっこ! 肩と肩が小さな手で繋がってきます。みんなにこにこ笑顔になりました。ちよと、体操もやって準備はOK!

杉田さんのステージが始まりました。笑顔に包まれた素敵な歌が会場中に響きます。小さな頃に聞いていた懐かしい歌はもちろん、世界にひとつだけの花など、少し大人の歌もたくさん聞かせてもらいました。

「つたを歌うと元気が出てくるよ!」杉田さんの言葉にみんなの口元が緩み始め、次第に子供たちの顔は魔法がかかったように柔らかくなってきました。

そのキラキラした余韻が残るなか、最後はみんなでひとつの音作りです。参加の皆さんはもちろん、杉田さん、慶應のお兄さん、おねえさんと一緒に、手のひらを太陽にのびのびと振りつけをしながら歌います。

♪みんな生きてるんだ
友達なんだ♪

会場の仲間たちと肩をくんでいっぴい歌いました。

「今日、出会ったこと、笑顔、一緒に歌ったこと、大切な思い出にしようね!」

杉田さんの言葉とともにみんなの歌と心がホールいっぴいに広がって素敵なエンディングを迎えました。

(海藤道子)



最後はみんなで大合唱!

からだ館 第9回「にこにこ倶楽部」

大黒舞

暑氣払いの一役

患者さんやそのご家族のつどいの場

「にこにこ倶楽部」を八月六日に女性センターで開催しました。

当日は「猛暑日!」暑さにもかかわらず、初めての方二名を含めて沢山の方が参加してくださいました。

冷たいお茶とスイカ、その後はスタッフ、海藤の手作りの「豆腐のシフォケーキ」と紅茶で会話がはずみました。今回は、朝日にお住まいの渡部さんに「大黒舞」を披露していただきました。

「にこにこ倶楽部」は毎月第一金曜日、午前十時から開催します。スタッフ一同、お待ちしております。



渡部さんの見事な大黒舞

夏休み自由研究おうえん隊大好評にて終了



8月4日5日、小学生を対象に以下の4つのプログラムで行いました。

☆庄内病院の看護師さん ☆慶應義塾大学のおにいさんおねえさん ☆バイオラボ棟の先生に
たくさん教わりました！小学生パワー素晴らしい！参加してくれたみんなありがとう

街で体験、ユニバーサルデザイン！

「みんなが主役の社会を作ろう！」

みんなにやさしいデザイン、障害者や社会的弱者との「共生」を勉強しました。力がなくても開けられるジャムの瓶、さわってわかるシャンプーとリンスのボトルの違いなど、身近な商品にも工夫や配慮がたくさんありました。

おもいをつけての妊婦体験、白内障メガネをつけた老人体験、車いすでの登坂や障害物を越える体験もしました。車いすで生活している方の自動車の乗り降りを実際に見て、子供たち一人一人が「社会にやさしい」を考えました。（加藤正志）



重りで妊婦体験



いのちを救え！

「災害現場で僕達私たちができること」

学校の帰り道、大地震に遭遇して、けがをした人がいたら、自分に何ができるだろう？ランドセルの中の持ち物で応急処置ができるよ！そんなことを伝えたいと「いのちを救え！災害現場で私たちができること」を庄内病院看護師さん達と企画しました。

会場の庄内病院には十三人の小学生が参加し、病院の役割、救命の方法、手洗いの大切さなどを教わりました。

けがの応急処置の実習では、傘やはし箱を使って足をぐるぐる巻きにして看護師さんをびっくりさせました。

普段は見られない薬の調剤室やヘリポートも見学。人の命を考えた一日になりました。（海藤道子）



二酸化炭素はどこがやっつけてくるの？

「生き物と空気の間を調べよう！」

慶應義塾大学先端生命科学研究所の伊藤卓朗さんを講師に、小学生七名が、いろいろな場所から空気を採取して二酸化炭素濃度を測定したり、池から採取した藻を顕微鏡で観察してスケッチしました。

二酸化炭素の濃度は、木の種類や日差しの強さ、葉っぱの数などによっても異なっていること、さらに、人が吐いた息と、車の排気ガスの濃度が同じレベルであることが、測定によってわかり、

藻が油を生み出している伊藤さんの研究のお話にも、子どもたちは真剣に耳を傾け、メモをとっていました。白衣を着たチビツ子研究員の皆さんご苦労様でした。（日下部ゆき）



生命の秘密を探ろう！

「線虫の実験から学ぶ命のしくみ」

線虫とは、ノーベル賞を受賞した研究にも使われている小さな小さな虫です。当日、慶應義塾大学先端生命科学研究所に、理科好き小学生六名が集合。線虫の遺伝子を増やす実験に挑戦し、長生きをする線虫と通常の線虫の遺伝子の違いを見つけました。講師の小知和裕美さんの指導のもと、何度も顕微鏡をのぞき実験器具も上手に使えるようになりました。

後日致道ライブラリーで、微生物



凶鑑を熱心に見ている見覚えのあるかわいい一団がいきました。参加してくれた子供たち！「理科がもっと大好きになった」と話してくれました。鶴岡から世界に羽ばたく研究者が生まれるのも、そう遠くないかも知れませんか。（齊藤彩）

編集後記

例年のない猛暑の夏。毎日のように熱中症に倒れられた方のニュースを聞きますが、子供たちは元気！！からだ館の夏休みイベントにも、たくさんの子供たちが参加してくれて、スタッフも「やってよかったー！」と喜びと感謝でいっぱいでした。

ところで先日テレビでやっていたのですが、スライスし、カリカリに乾燥させた生姜を食べると生のものより体温が上がり、効果抜群とのことでしたよ。お試してください。これからの「からだ館」は、10月10日小真木の体育館で行われる「健康のつどい」に今年も参加します。是非いらしてください。

「からだ館通信」に対するご意見、ご質問、ご感想もお寄せ下さい。

（佐藤 聡）

